

**令和6年度特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する
技術的事項検討会議（第3回）
議事録**

1. 日時 : 令和6年6月12日（水）10:00-12:00

2. 場所 : WEB会議

3. 出席者 :

委員（◎座長）

肴倉 宏史 国立研究開発法人 国立環境研究所資源循環領域
（試験評価・適正管理研究室）室長（研究）

鈴木 道夫 橋元綜合法律事務所 弁護士

高岡 昌輝 京都大学大学院
工学研究科都市環境工学専攻 教授

◎寺園 淳 国立研究開発法人 国立環境研究所資源循環領域
上級主席研究員

環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課

事務局 株式会社 Ahmy

非鉄金属リサイクル全国連合会リサイクル環境推進部会 部会長、東港金属株式会社 代表取締役 福田隆

4. 議事次第

1. 開会

2. 議事

- (1) e-waste に関するバーゼル条約附属書の改正について
- (2) 第1回検討会議で提示した議論いただきたい内容について
- (3) 廃鉛蓄電池の輸出先での処理に係る技術的検討事項について

5. 配布資料

資料1 e-wasteに係る課題について（非鉄金属リサイクル全国連合会）

参考資料1 令和6年度特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する技術的事項検討会議（第2回）議事録

6. 議事概要

1. 開会

3つ目の議題である「廃鉛蓄電池の輸出先での処理に係る技術的検討事項について」に関して、特定企業の詳細な処分技術に関する内容等が含まれる議題となっているため、環境

省より非公開で議論することを提案し、寺園座長より各委員に確認したところ、全ての委員は、異議なしと回答した。このため、非公開にて開催した部分の議事概要を、個別の企業の情報には配慮した形で当該議事録にて公開する取扱いとすることとした上で、3つ目の議題は非公開で議論されることが決定した。

2. 議事

(1) e-waste に関するバーゼル条約附属書の改正について（公開部分）

後日追記。

(2) 第1回検討会議で提示した議論いただきたい内容について（公開部分）

後日追記。

(3) 廃鉛蓄電池の輸出先での処理に係る技術的検討事項について（非公開部分）

環境省より、第2回の検討会議で委員の先生方に回答できていなかったいくつかの論点について今回説明を行った。この説明を踏まえて、個別事業者の廃鉛蓄電池輸出の方針について、各委員から意見を聴取した。

非公開部分については、本件について知見を持つ個別事業者も参加した。

議論の概要は以下のとおり

委員より、以下の内容を踏まえて、範囲省令の基準を下回らないことから、環境省が輸出先国への通告を実施することに異議はないとの意見が出された。

- ・ 個別事業者の持つ技術により、鉛精錬で発生したスラグ中の重金属の溶出値を日本の法令に基づく溶出基準まで低減すること。
- ・ スラグ中の重金属の溶出値の低減を継続的に実施できる体制であること。
- ・ 処分場が、実質的に日本の管理型処分場と同等の構造及び維持管理となっていること。

以上に加えて、実際の管理体制を確認するため、環境省が現地確認を行うこと、及び継続的な実施体制があることを確認するため、環境省に対し定期的に報告することを求めるべきとの意見が出された。

4. 閉会

後日追記。